

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の対象学校・対象学年

- ・川辺町 小学校3校 中学校1校
- ・小学校第6学年、中学校第3学年

### (3) 調査内容

#### ①教科に関する調査【国語、算数・数学、理科】

- ・主として「知識」に関する問題
- ・主として「活用」に関する問題

#### ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

### (4) 調査日 平成27年4月21日(火)

## 2 川辺町における調査結果の概要

### (1) 教科に関する調査結果

#### 小学校

全国の平均正答率と比べ、すべての教科でやや下回る結果となっています。ここ3年間の国語と算数の経年比較においても、同様な傾向にあります。また、調査項目ごとに全国と本町を比較すると、よくできている項目と課題となる項目はほぼ一致しています。

#### 【本町の児童が概ね身に付けている内容】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むこと。(国語)
- 示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択すること。(算数)
- 顕微鏡の適切な操作方法を身に付けること。(理科)

#### 【本町の児童に一層身に付けさせたい内容】

- △学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと。(国語)
- △日常生活の中で必要となる時刻を求めること。(算数)
- △星座の動きを捉えるための適切な記録方法を身に付けること。(理科)

#### 中学校

全国の平均正答率と比べ、すべての教科で上回る結果となっています。ここ3年間の国語と数学の経年比較においても、同様な傾向にあります。また、調査項目ごとに全国と本町を比較すると、よくできている項目と課題となる項目はほぼ一致しています。

#### 【本町の生徒が概ね身に付けている内容】

- 状況に応じて、資料を活用して話すこと。(国語)
- 平行移動した図形をかくこと。(数学)
- 天気の記号から風向を読み取り、風向計を使って風向を観測すること。(理科)

【本町の生徒に一層身に付けさせたい内容】

△文脈に即して漢字を正しく読むことができる。(国語)

△証明を振り返り、新たな性質を見いだすことができる。(数学)

△他者の考えた実験の方法を検討して改善し、適切な方法を説明することができる。(理科)

(2) 児童生徒質問紙に関する調査結果

全国の平均と比べて特徴的な項目は次のとおりです。

小学校

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と答えた児童の割合が多い。

○「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と答えた児童の割合が多い。

△「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と答えた児童の割合が少ない。

△「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童が全国平均と比較して少ない。

中学校

○「授業での見通しや振り返りがきちんとできている」と答えた生徒が多い。

○「平日、1時間携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている」と答えた生徒が少なくなっている。「かわべKMS 9運動」の成果が出始めている。

△学習に意欲的に取り組み内容を習得しているが、「授業がわかる」と答えた生徒の割合が少ない。

△「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒の割合が少ない。

3 今後の取組について

上記の結果を踏まえ、川辺町として次のことを大切にしております。

(1) 「児童生徒の実態」「学習状況」「定着」の3つを見届ける授業づくりの推進

・今回の結果を踏まえた各校の指導改善を具体化する取組を支援する。

(各校の指導改善については、校報等で保護者に伝える。)

・図書館教育を推進し、学校図書館を「読書センター」としての機能に加え「学習・情報センター」としての機能と活用の充実を図る取組を支援する。

(2) 学校と家庭・地域との連携強化

・情報通信機器の健全利用をめざす「かわべKMS 9運動」をさらに推進し、安全・安心な環境を整える。

・家庭学習の方法や内容の充実を家庭と連携して進める。

・「ふるさと教育」を推進し「わたしが好き」「この町が好き」と言える児童生徒を増やす。